

こんな学校でありたい II

～児童生徒の人権を尊重した教師のことば～



平成27年3月

茨城県教育研究会 人権教育研究部



体罰や暴言は、児童生徒の人権侵害！！

体罰や暴言につながる主な考え方

児童生徒は、判断力が未熟であり、指導される立場にあるのだから多少の体罰や暴言は受け入れるべきだという考え方

自分自身の評価や満足感を得るため、性急に結果を求める考え方

部活動や校内大会等における勝利至上主義の考え方

自分自身が体罰によって鍛えられたので、ある程度の体罰は必要かつ有益であるとする考え方

何やってたんだ！
もう授業は始まっている。

頭があるんだから
使いなさい！

やる気がないなら
出て行け！



何回言ったらわかるんだ！

うるさい！
今は私の話を聞くところだ。

お父さんは立派な人
なのに、何でおまえは
パツとしないんだ？

こんな話し方していませんか？

へたくそ！
やめてしまえ！

太り過ぎじゃないの？

日本語が分からないのか？



ばかじゃないの？
何で教えたとおりに
できないの？

あんな子に負けて
恥ずかしくないの？

〇〇のくせに……

人権意識を高めよう

人権感覚のチェックリスト

私たちは普段、人権ということを意識して過ごしているつもりでも、知らない間に誰かの人権を侵害してしまっていることがあります。恐ろしいことに、人権を侵害している側はそのことに気づかず、相手にとって深刻な問題であると感じていないことが多いのです。

今、私たちは教師として児童生徒の前に立っています。私たちが行動モデルとなっていることを意識して、人権感覚を高めていくことが大切です。

それぞれの学校生活場面で振り返りをし、人権感覚を磨いていきましょう。

＜ 月に1回セルフチェックをしてみましょう。 ＞

○朝の会

- 急に登校時刻が変わった児童生徒のことを気にかけていますか。
- 登校してきた児童生徒に『おはようございます』とあいさつをしていますか。
- 欠席児童生徒のことを、学級の児童生徒が意識できるようにしていますか。
- 人権にかかわる話題を紹介し、児童生徒に考えさせていますか。

○授業中

- 一人一人の発言を大切に uptake していますか。
- 一人一人の頑張りを認め、みんなの前でほめるようにしていますか。
- 児童生徒が安心して考えや思いを発言できる授業の雰囲気をつくっていますか。
- 間違った答えも大切にし、児童生徒が学習意欲を損なわないように配慮していますか。
- 児童生徒の視力、聴力、座席位置などに配慮して板書、資料提示をしていますか。

○休み時間

- 一人でぼんやりしている児童生徒に声をかけていますか。
- 児童生徒間の人間関係に気を配っていますか。

○給食

- アレルギーなどの児童生徒の実態を把握して指導していますか。
- 児童生徒のテーブルクロスや給食着などが清潔に保たれているか気を配っていますか。
- 準備や片付けの時、特定の児童生徒が偏った仕事をしていないか気をつけていますか。

○清掃

- 特定の児童生徒に仕事が押しつけられていないか気をつけていますか。
- 教室や廊下の壁や掲示物に落書きはないか気をつけていますか。

○帰りの会

- 1日を振り返り、児童生徒の頑張っていたことをほめるようにしていますか。
- 欠席者への連絡や配付物等の確保に配慮していますか。

○保護者とのかかわり

- 保護者の願いを受け止め、学級経営に生かそうとしていますか。
- 保護者と日常的に話し合える雰囲気をつくっていますか。
- 保護者によって対応が違ってしまうことはありませんか。

○職員室

- 教師間での言葉遣いに気を配っていますか。
- 児童生徒の気になる様子や頑張っていることなどがよく話題に上がりますか。
- 特別に支援を要する児童生徒を把握し、支援方法について共通理解をしていますか。

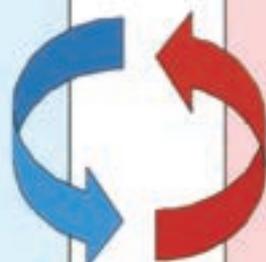
○その他

- 児童生徒を指導する際、人格を否定するような注意をしていませんか。
- 児童生徒同士の相手を罵倒する言葉や暴言等を黙認していませんか。
- 名簿、連絡網、写真の掲載、成績等、個人情報取扱に十分配慮していますか。
- 集金事務に際して、遅れがちな児童生徒に細かい配慮をしていますか。
- 児童生徒を兄弟姉妹と比較していませんか。
- 集団としての成果に目を奪われ、児童生徒への配慮に欠ける言動はありませんか。

教師ネガティブポジティブ辞典

ネガティブな言葉や表現も、ちょっとした言い換えで**ポジティブ**な言葉に置き換えることができます。児童生徒への言葉かけや、通知表の所見などに活用してください。

飽きっぽい
いぼっている
落ち着きがない
頑固 柔軟性に欠ける
気が弱い
気分屋 カッとなる
協調性がない
暗い
強情な
行動が遅い
心配性
でしゃばり
引っ込み思案
変わっている
周りを気にする
融通が利かない
わがまま



気持ちの切り替えが早い
自信に満ちている
行動力がある 好奇心が強い
一途、意志が強い
優しい 控えめな
感情豊か
自主性がある
落ち着きがある 控えめ
自分の意見を持っている
マイペース
用意周到
世話好きな 積極的な
慎重
個性的な
気が利く 心配りができる
周りに流されない
自分の気持ちに正直

平成26年度茨城県教育研究会 人権教育研究部 編集委員

氏名		学校名	
部長		大和田 栄	水戸市立梅が丘小学校
副部長	中央ブロック	谷津 照夫	東茨城県茨城町立長岡小学校
	県北ブロック	菊池 芳治	常陸太田市立太田小学校
	県東ブロック	白田 基一	鉾田市立青柳小学校
	県南ブロック	遠藤 眞	石岡市立三村小学校
	県西ブロック	島田 和夫	結城市立結城南中学校
研究推進委員長		佐藤 昭彦	常総市立豊岡小学校
研究推進副委員長		猪瀬 和男	桜川市立権穂小学校
研究推進委員	中央ブロック	鈴木 利佳	東茨城県茨城町立長岡小学校
	県北ブロック	野田こす恵	常陸太田市立久米小学校
	県東ブロック	越川 賢治	行方市立北浦中学校
	県南ブロック	毛塚 裕之	つくば市立高山中学校
	県西ブロック	岩見 喜市	結城市立江川北小学校

表紙は、平成26年度茨城県人権啓発ポスターコンクール最優秀グランプリ賞
かすみがうら市立下稲吉中学校 2年 押手 優紀子さんの作品です。

※このリーフレットは、茨城県教育研究会人権教育研究部のWebページからダウンロードできます。

始業前・朝の会



「〇〇さんの笑顔で先生はいつも
元気をもらっているよ。」

- 教師が明るい笑顔で迎えると、児童生徒は安心して学校生活をスタートできます。
- 児童生徒一人一人の目を見ながらあいさつをし、一人一人の表情を確認することが大切です。

「みんながそろっていると
うれしいね。」

「(昨日休んでいた) 〇〇さん、
今日の体調は大丈夫？
何かあったら先生に言ってね。」

- 「さん」づけで呼名しながら、児童生徒一人一人の表情や声の大きさ、視線などから健康状態や心理状態を把握することが大切です。
- 人権にかかわる話題を紹介することも、児童生徒の人権感覚を高めることにつながります。

「おはようございます。
〇〇さんはいつも
元気なあいさつだね。」

- 「おはようございます」のあとに一言添えてみると、児童生徒は、自分が大切にされているという自尊心を持って一日を始めることができます。



「〇〇さんが欠席で心配だね。
早く元気に登校できるといいね。」
「〇〇さんが登校してきたら△△
をやろうね。」

- 欠席した児童生徒を気遣うような教師の言動から、思いやりの心が育ちます。



授業中

「もう一度じっくり
考えてみよう！」
「きっとできるよ。
一緒に考えていこう。」

- ・教師は児童生徒によって理解度の違いがあることを認識し、励ますような言葉かけをしたり、個別指導を心がけたりすることが大切です。

「△△という考えだったんだね。」
「なるほど！そういう考え方もあるんだね。」

- ・間違えたことを失敗で終わらせるのではなく、発表をした勇気をたたえ、自信をもたせる言葉かけが大切です。誤答を大事にすることで発表への意欲が高まり、互いに学び合おうとする雰囲気が出てきます。

「どうしたの？どこか分からない
ところがあるのかな？」
「〇〇からやってみない？」

- ・支援が必要な児童生徒に対しては、その気持ちに寄り添った言葉かけをすることが大切です。



「見えにくい不是吗？」
「分かりづらいところはありませんか？」

- ・誰もが見える板書の文字の大きさ、誰もが聞こえる声の大きさと話し方はやささに配慮することが必要です。時には絵や図で分かりやすく説明するなど、授業のユニバーサルデザイン化を図ることも大切です。

「わからなかったら周りの人に聞いて
ごらん。」 (個人へ)
「グループの人と協力してみよう！」 (全体へ)

- ・スムーズにグループ活動に入れない児童生徒に対しては個別に声をかけたり、全体に対しては常に「互いに支え合い、学び合うことの大切さ」を伝えていったりすることが必要です。



休み時間



「〇〇さんの頑張りを、△△先生が話していたよ。」
「昨日の□□おもしろかったよね。」
「〇〇さんと、最近一緒にいないけどどうしたの？
何かあったの？」

- できるだけ時間を共有し、友人関係の変化に気を配りながら、コミュニケーションを深めるとともに、児童生徒との会話の中から気持ちを読み取ることを普段から心がけることが大切です。
- 孤立しがちな児童生徒に配慮した言葉かけをし、いじめなどが起こる機会を与えないようにします。

「いつもの元気がないね。
何かあったの？」
「何か困っていることがあったら
いつでも相談においでよ。」

- 児童生徒に寄り添いながら、自然に悩みを話せたり、新たな意欲を高めたりする機会をつくることが大切です。気になる児童生徒には、積極的に声をかけ、相談する機会を意図的につくるようにします。



給食

「当番さん、ありがとう！」
「みんなで食べるとおいしいね。」
「最近の楽しみは何？」

- 準備や片付けも児童生徒とともにやり、係や当番の児童生徒への感謝の気持ちを率先して表すことが大切です。
- 会話に入れず一人で食べている児童生徒はいないか気を配りながら、会話を通して、お互いを理解するよう努めます。
- 完食は強要せず、食べることの楽しさ、大切さが感じられるような言葉かけが必要です。



清掃



「きれいになったね。
〇〇さんのおかげだね。」
「〇〇さんがきれいにしてくれているから
みんな気持ち良く過ごせるね。」
「君たちが担当だからこの場所はいつもきれいだね。」

- 一緒に働き、ねぎらいや賞賛の言葉をかけることが、自己有用感を高めることにつながります。自分の仕事を認められることによって、児童生徒は必要とされている自分を感ずることが出来ます。

帰りの会



「今日も清掃や給食の取りかかりが素早くできたね。すばらしかったね。」

「〇〇さんの活躍はとてもよかったね。」

- 帰りの会は一日の生活を振り返り、お互いのよさを見つけたり、認め合ったりするよい時間となります。一人一人のよさを認め合うことは、よい集団をつくるための大切な取組です。

下校指導



「さようなら。
十分気をつけて帰ろうね。」

「今日も一日よく頑張ったね。
また明日も元気に会おうね。」

- 何よりも安全が最優先です。児童生徒の安全を願い、毎日言葉かけをすることはとても大切です。
- 保護者は児童生徒が笑顔で帰宅することを願っています。児童生徒への温かい言葉かけは保護者にとっても日々の子育ての励みとなります。

放課後



「よく話してくれたね。ありがとう。」

「〇〇さんはそんなに努力していたんだね。すごいね。これからも応援しているよ。」

- 自分の悩みを親身になって聞いてくれる人がいることは、とてもうれしく安心できます。児童生徒の想いに寄り添いながら、気持ちを理解しようとする姿勢が大切です。

「いいプレーだね。みんなその調子だよ。」

「〇〇さんはいつも大きな声を出して盛り上げてくれているね。ありがとう。」

- 威圧的な言葉や態度での指導は児童生徒の心を深く傷つけます。体罰や暴言は絶対に許されるものではありません。
- 児童生徒は認められることで自信をつけ、向上心や自主性が育っていきます。

